

紙芝居「やさしいココロ」

(低学年向け)

脚本・絵:有賀 忍 (12枚・表紙含む) 製作:公益社団法人「小さな親切」運動本部

① 工作の時間に、石に絵を描いた“ぼく”は、面白かったのでまた描こうと思いました。川原で石を拾うために近道を通る時は、いつもドキドキします。そこには怖いおじさんがいるからです。



② 川原への近道、工事の道具置き場にいる怖いおじさんは、おにぎりみたいな三角頭でみんな“オニギリ”と呼んでいます。オニギリは、あいさつしない子、声の小さい子を通してくれません。



③ こっそり黙って通ろうとしたら、「何度言ったらわかるんだ。勝手に通ると危ないぞ」と怒られました。ぼくたちは、オニギリの笑った顔を見たことがありません。



④ お父さんにぐちを言うと、お父さんはあの近道はオニギリのおうちの一部であること、そこを通る小さな子の安全を考えて、うるさく「あいさつしろ」といっていることを教えてくれます。



⑤ 次の日ぼくは、オニギリにちゃんとあいさつをして川原に行きました。そこには川に落ちておぼれる子犬リスと、助けを呼ぶおじさんがいました。ぼくは、オニギリのところに走りました。



⑥ オニギリはリスを助けるために、猛スピードで川原に走っていきました。そして川に入るとどンドンリスに近づきました。ぼくの声援に、オニギリは「大丈夫。まかせておけて」と答えます。



⑦ あっという間にリスをすくい上げるオニギリ。リスが助かったことに、ぼくたちは喜びました。



⑧ おじいさんも大喜び。オニギリに「あなたは命の恩人です」と言うと、オニギリは照れくさそうに、「礼ならこのぼうやに…」と答えます。おじいさんはぼくにも感謝をしました。



⑨ 日記にリスのことを書いて先生に渡すと、先生はぼくを褒めてくれました。工作の時間、オニギリ顔を石に描くと、先生は確かにおにぎりみただいなあ、と笑いました。



⑩ どうしても会ってお礼がしたかったというリスのおばあさんが、おじいさんやリスとぼくを尋ねてきました。ぼくは当たり前のことをしただけ、と照れてしまいます。おばあさんは、お菓子のお土産をくれました。



⑪ お菓子を食べようとしたぼくでしたが、オニギリの、必死にリスを助ける姿を思い浮かべ、オニギリにお菓子を半分届けることにしました。



⑫ お菓子の箱には、工作の時間に描いたオニギリの絵も。オニギリは自分にそっくりだと大笑いしました。ぼくは、オニギリがもうぜんぜん怖くないことに気づきました。

